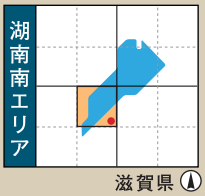
史跡
国指定

草津宿本陣（くさつじゅくほんじん）

草津市草津一丁目　昭和24年7月13日指定



草津は、古代以来、東海道と中山道の分岐点として重要視された地です。宿場は、慶長19年（1614）に膳所藩主が茶屋を営業させたことにより、急速に発達し、本陣、脇本陣、旅籠などの宿泊施設が数多く設置され、往来の便を図っていました。その中の、東海道でも最大規模の本陣が今に残り、史跡となっています。

当時のできごと	
1616年	徳川家康没
1701年	殿中松廊下事件（江戸城中刃傷事件）
1823年	シーボルト来日

草津宿について

江戸時代に、幕藩体制の確立のため五街道が整備され、街道には2、3里毎に宿場が置かれました。宿場には大名、皇族、旗本などの貴人が宿泊する本陣と、これを補う脇本陣、一般の旅人が宿泊をする旅籠が設置されました。

草津宿は、東海道と中山道の分岐点にある宿場として栄え、天保14年（1843）の記録によると、約1.3kmの街道沿いに、本陣が2軒、脇本陣が2軒、旅籠が72軒ありました。

史跡に指定されているのは、2軒の本陣のうち、田中七左右衛門本陣です。もう一軒の田中九蔵本陣は、明治時代に取り壊され、今はその面影をたどることはできません。



表門

本陣の構造

現在残る建物は、享保3年（1718）に前身建物が焼失したため、膳所藩の瓦ヶ浜御殿を拝領して移築したものです。敷地面積は約4300㎡、間口26m、建物面積約1540㎡、畳部屋数39室の本陣としては最大規模の施設です。

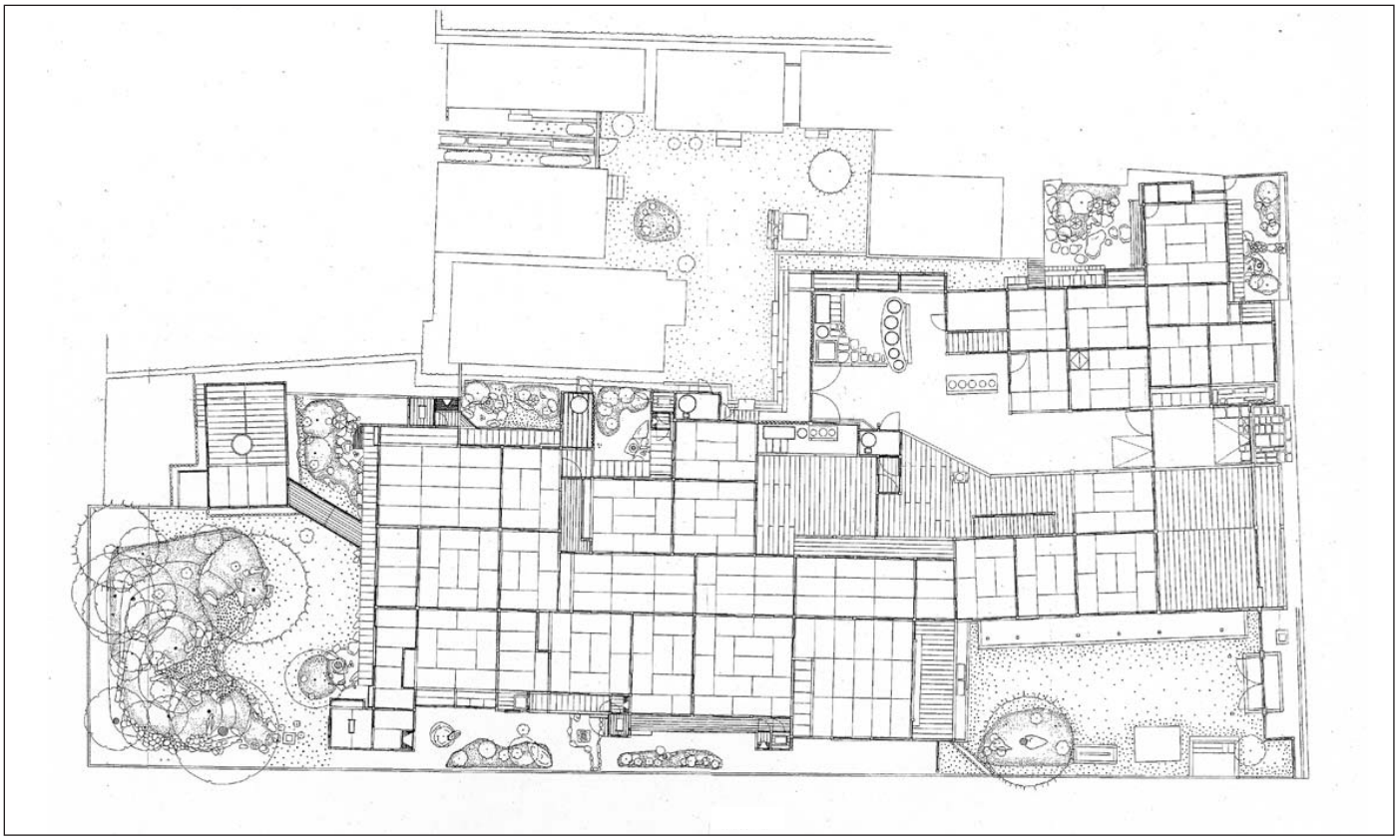
構造は書院造りで、表門、御除門（およけもん）、敷台のある玄関、上段の間などがあります。これらの部屋は、松村景文などの手による障壁画で豪華に装飾されています。

また、敷地の南側には川が、西および北側には二重の堀があり、敷地の内部には、倉を要所に配し防壁の役を果たすようにするなど、要人の宿泊施設らしい防御構造となっています。

明治3年（1870）本陣廃止後、建物は郡役所、公民館などに使われましたが、平成8年に修復工事を行い、往時の東海道の有り様を体感する場として、公開されています。



上段の間



草津宿本陣全体図

本陣に残る行き来の有り様

本陣には、建物の他に近世の交通資料がたくさん残されています。特に元禄５年（1692）から明治７年（1874）までの182年分の宿帳182冊が現存しており、この中には、忠臣蔵の吉良上野介（きらこうずけのすけ）と浅野内匠頭（あさのたくみのかみ）が相前後して宿泊したこと、皇女和宮（かずのみや）がここで昼食をとったこと、ドイツ人医師シーボルトが宿泊したことなど、興味深い記録が記載されています。

また、大名の休泊の際、入り口に掲げた多数の関札（せきふだ）、草津川の渡しに用いた輦台（れんだい）なども残り、往時の往来の有り様を今に伝えています。

関連する文化財

旧和中散本舗（栗東市）	学習シートNo.022
大黒屋本陣（土山町）	東海道土山宿に置かれた本陣の遺跡
今宿一里塚（守山市）	学習シートNo.045
水口城跡（水口町）	学習シートNo.046
旧東海道横田渡跡（水口町）	学習シートNo.048

もっと深く知りたい

草津宿街道交流館	☎077-567-0030　草津市草津3-10-4
水口城資料館	☎0748-63-5577　甲賀郡水口町本丸4103
石部町歴史民俗資料館	☎0748-77-5400　甲賀郡石部町雨山2-1-1
土山町立歴史民俗資料館	☎0748-66-1056　甲賀郡土山町北土山2230
草津宿本陣へのアクセス	JR琵琶湖線　草津駅下車



【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会〔図説近江の街道〕郷土出版社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月